



■ 新しい常識の中で 副会長 宮本 信

未だ終息の兆しが見えない新型コロナ禍の中、皆様いかがお過ごしでしょうか？今年度のシニアクラブ活動もすでに後半に入っていますが、以前のように皆で集まって交流することは望むべくもなく、zoom を活用したリモートでの会合など、限られたイベントしか実施できない状況です。

新型コロナウイルス対策の決め手といわれるワクチン接種の促進などにより、早く以前のような活動ができる状況になることが望まれますが、それでも、マスク着用や集合時の検温、都度のアルコール除菌、密の回避など、新しい常識の中での活動となることは避けられないようです。



新しい常識といえば、世界では私たちがあたりまえとってきた「民主主義」や「人権尊重」が衰退していることをご存じでしょうか。2020年10月26日の日本経済新聞朝刊1面に「民主主義 少数派に」という記事がありました。18年ぶりに非民主主義国家に暮らす人が民主主義国家のそれを上回ったという内容です。

事実、昨今の世界を見てみると中国の香港国家安全維持法や、ミャンマーの軍部によるクーデターなど自国民の人権すら疎かにする、国家による強権的な動きが目立っています。

欧州でも EU 加盟国であるハンガリーが2018年に非民主主義国家に逆戻りしたといわれています。

その背景には、民主化でより自由で豊かになるはずの市民が、実際にはごく一部の層への富の集中などにより、無力を味わう構図となる「自由民主主義のパラドクス」に陥っていることが挙げられています。あの自由民主主義のリーダーであるはずの米国でさえ、トランプ大統領就任中は、このパラドクスのさなかにあったと言われています。

新型コロナウイルス対策では、国によっては都市のロックダウンや外出制限など国民の権利を大幅に制限するケースも見受けられます。そのためコロナ禍が非民主化の動きに拍車をかけるのではと危惧する声もあるようです。

つい先日ミャンマー軍の高官が市民を銃撃する理由として「木を育てるには周りの雑草を取り除かなければならない」と発言したとのニュースを見ました。市民を虐殺してでも育てなければならない木などあるのでしょうか。私には到底理解できません。

コロナ禍のような自然災害に対応するために新しい常識が必要となることもあるのは事実ですが、先人が苦勞して築き上げてきた守るべき常識もあるはずです。そのことについて一人ひとりが考える必要があると思います。

■ SDGs（持続可能な開発目標）

このところ、テレビコマーシャルやニュースなど様々な報道の中に“SDGs”という言葉を見聞きするようになりました。そして図のようなバッジを胸につけている人にも出会うようになってきました。



もちろん、皆さんはこれがなんであるかはご存じのことでしょう。

21世紀を迎える直前の2000年に国連が採択したミレニアム宣言に、MDGs（ミレニアム開発目標）がありました。これは2015年までに貧困や飢餓・差別の撲滅など8つの目標を掲げ、もっぱら途上国を対象とした開発が進められたもので、日本もそれに貢献してきました。



持続可能な社会のために
ナマケモノにもできる
アクション・ガイド

この間、社会情勢が大きく変化してきた中で、先進国の課題も対象として新たに2030年に向けた17の持続可能な開発目標がSDGsです。

そしてこれには国や公共機関に限らず、企業や個人一人ひとりも取り組むことが重要とされています。国連広報センター資料に「ナマケモノにもできるアクションガイド」というものがありました。

https://www.unic.or.jp/news_press/features_backgrounders/24082/

電気を節約しよう、水を大切に、フードロスをなくそう、エネルギーだ、資源だ、クリーンだ・・・寝たままできること、家でできること・・・もろもろ書いてあります。詳しくは直接ご確認ください。自分で自分をSDGs認定して取り組んでみてはいかがでしょうか。

4月に米国バイデン大統領の呼びかけで気候変動サミットがオンラインで開催されました。この席で日本は2030年までに2013年比 CO2排出量削減46% を表明しました。

国際間で抱える諸課題にはそれぞれ利害対立もある中、気候問題は各国において認識が高まっており、SDGsの中でも比較的協調しやすいテーマですが、「平和と公正」という目標に世界はどう対処していくのでしょうか。今、世界は逆方向に向かっていませんか。

■ 事務局から・・・オンラインを活用しています。

コロナ禍が長期にわたる中、シニアクラブ活動もずいぶん制約を受けています。紙面によるシニアクラブ便りは年4回発行としてきましたが、具体的な行事を企画することができない中、会員とのコミュニケーションを維持するべく、2月からオンラインを活用して『電子版』を発行するようになりました。ネットにアクセスできない会員も多くいる中、今回は2月～4月に発行した電子版もプリントして皆様に送付いたしますのでご覧ください。すでにネットで見ているという方も多いことと思いますが、ご了解ください。

更に、オンラインによる会合も行っています。下の写真は4月24日に開催したものです。5月以降もこれは続けていく予定ですのでネットにアクセスできる方は是非ご参加ください。

2021.04.24 シニアクラブ zoom ミーティング報告

「歌・音楽」をテーマに開催された今回のミーティングでは13人が参加、自備のレコードやオーディオシステムなどの紹介をしてもらいました。「とり」として流見さんには歌謡曲の歴史をひもとき、ギターを伴奏に同曲の歌を披露してもらいました。オンラインでは観客の反応が分かりにくいのが難点です。コロナが遠慮した境には流見さんのギターに合わせてどこか広い場所まで大きな声で歌いたいです。今回は戦前版でしたが、次の機会には戦後版も期待しています。2021.04.25 JVCKW シニアクラブ事務局 田代 周



「歌でたどる昭和史」のご案内

- 昭和の時代を流行歌と共に振り返ります
- ほぼ50年単位で話を進めてまいります
- 世相の説明は多分に個人的見解です
- 厚かましくも歌など武山魂います
- 良かったら一緒に歌って下さい(1人1曲以内)
- 本日は「戦前編」です(戦後編は次年度開催予定です)

その頃の歌

■古賀政男の出現(戦前の歌)

「歌は誰かのための」「イキメの唄」「東京ラブソング」「花を踏んで」「人生の基本道」「男の神髄」「影を踏んで」「新しい音楽」「二人は若い」...

■多様化と大ヒット

「船子の唄」「高砂舞子」「赤い糸」「東京ラブソング」「花を踏んで」「人生の基本道」「男の神髄」「影を踏んで」...

■藤島と早稲田「応援歌」物語

「若き血」「若くは」「若くは」「若くは」...

戦前(昭和10～19)

年	曲名	歌手
昭和10年	船子の唄	高砂舞子
昭和11年	高砂舞子	高砂舞子
昭和12年	赤い糸	高砂舞子
昭和13年	東京ラブソング	高砂舞子
昭和14年	花を踏んで	高砂舞子
昭和15年	人生の基本道	高砂舞子
昭和16年	男の神髄	高砂舞子
昭和17年	影を踏んで	高砂舞子
昭和18年	新しい音楽	高砂舞子
昭和19年	二人は若い	高砂舞子

●軍部の独走と強まる軍事色
●不況と凶作による閉塞感
●さらに音楽に酔う庶民

流見さん、お疲れさまでした。

事務局 田代 周